



荒神さんでの祝詞

今回は、清水川の「申し上げ祭り」を紹介いたします。元々は、新嘗祭がルールと言われています。

十一月二十三日午前中に天萬神社の山本宮司を迎えて、地の神・水の神への幣串を作り、お祓いを受けたのちに「荒神さん」へ行き、一年の収穫に感謝し、お酒と塩・小魚を供え、新しい幣串を立て、しめ縄を交換し、祝詞を奉申し上げます。地の神・水の神への幣串は、それぞれの家庭に持ち帰りおまつりします。それが終わると、昼食を兼ねて一同がお神酒を飲み、御馳走をいただきます。いつごろから始まったの

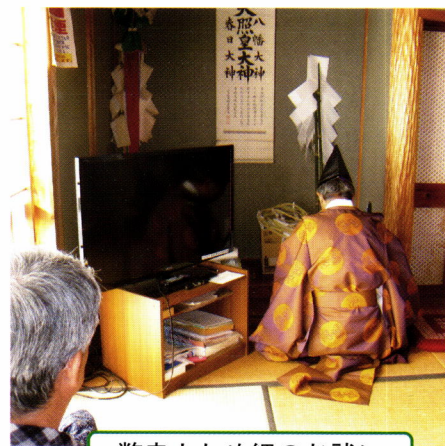
伝統行事紹介
清水川「申し上げ祭り」



第 22 号
発行
天津地域振興協議会
総務企画部編集委員会
印刷
米子ワークホーム



幣串づくり



幣串としめ縄のお祓い

か定かではありませんが、「申し上げ祭り」は十一月二十三日と決められ、伝統文化の継承と地域住民の懇親のために続けられています。

(畠 稔明)

新嘗祭とは

新嘗祭は、新穀の収穫を神に感謝するお祭りのことで、毎年十一月二十三日に行われています。

「新嘗」とは、その年に収穫された新しい穀物を食することをいいます。新嘗祭は、日本の古くからの重要な祭儀であり「豊葦原の瑞穂の国」の祭祀を司る最高責任者である天皇が、その年にとれた新穀を天神地祇に供えて、農作物の収穫に感謝するとともに、自らも初めて召し上げられる祭典です。

この日は祭日で、全国の農村漁村ではもちろんのこと、それぞれの地方で神社に新穀を捧げ、その年の収穫を神々に感謝してお祝いをしてきました。

戦後に十一月二十三日は勤労感謝の日と代えられましたが、新嘗祭は、元々このように天皇と国民とが一体となって天地自然の神々に感謝し、収穫を喜び合う国民的な祭典だったので



母塚山山頂にて

快晴の九月二十日、鳥取大学生や国立音楽院生はじめ多くの方々がふるさと交流センターに集合。合計四十三名の参加者で賑わう。まずは、母塚山山頂に移動して眺望神話の里のロマンを探る。「赤猪岩神社」「天津周辺と大國山歩き」「法勝寺界限」「金山散策」の四班に分かれて行動。

旬の話題
若い世代との
異年齢交流に
元気を戴く！
第二回南部町体験型
観光推進事業に湧く！



谷川の大太鼓

お昼には緑水園にて「猪肉のバーベキュー」で舌鼓。参加者から思わず一句「シシ肉を食して笑顔、山光る」等名句も飛び出す。第一回の舞台が南部町、そこには「体験観光」を考える地域の宝再発見にふさわしい感動の成果が醸し出され、癒しと「神話再活」の地で参加者一同大いにリフレッシュした。

「自立」と「継続可能」を体感した一日でした。

(野口 宣友)



あまつのお店紹介
喫茶「くるみ」

阿賀の喫茶店「くるみ」にお邪魔し、店主の遠藤順子さんにお話を伺いました。

遠藤さんは、定常にお住まいでしたが、緑水湖ダムの建設に伴い、阿賀に転居されました。それまでは和牛を五十頭育成される農家でいらっしやったそうです。昭和五十三年十月三日に開店し、今年で三十五年目となります。

お勤めのときに、定年退職のない自営業を「思いつき」で始められたのが喫茶店「くるみ」であり、名前の由来は、山間部であった定常を思わせるものから「くるみ」となされたとのこと。



釣りの仕掛けづくり中の旦那さんとパチリ

午前中は、おなじみのお客さんばかりであり、遠藤さんのお言葉借りれば「近所の方の憩いの場」であるそうです。顔なじみの常連さんばかりの時は、お店をお客さんだけにして、庭の草取りをしていらっしやることもあるそうです。

カウンター四席・テーブル十四席、コーヒーはサイフォン式のお店です。地域のコミュニティとして開店していらっしやる「くるみ」さんに、皆さんお出掛けください。

(野口 昭宏)
営業時間九時〜十七時

(早く終わることもあります)
☎ 0859-66-4110

私は地区にある古事、伝承等をその地の歴史文化として捉え大切に考えていますが、伝承者の高齢化等により忘れ去られようとしています。このことを踏まえ、皆で共有し引き継ぐことを念願していた折、振興協議会で今後の地域づくりの一つとして各集落の古事、歴史、行事等を後世に残すことが決められたのに伴い、その編纂委員の一人として参加し、一年かけて「ふるさと天津紀行」を刊行、各戸に配布することができました。

また翌年、当県で地域づくり団体研究全国大会が開催され、冊子編纂委員に発表の依頼があり、天津・手間地区に伝わる神話伝説を紹介し、これを観光の最大の目玉として今後地域の活性化に活かすことを約束しました。

その後、町から南部町体験型観光推進事業のため委託を受けた「(有)地域未来」の指導を受け、観光ガイドの具現化に向けて地区の思い入れの強い方と一緒に、な

あの人この人
なんぶ神話観光ガイドの会発足



野口宣友 大塚道夫
亀尾寛一 吉田英明

んぶ神話観光ガイドの会を立ち上げました。

神話伝説の継承と観光資源として地域づくりに有効活用することを目的とし、会の名前と組織体系と基本神話コースの設定、また統一した案内内容を取り決めました。

この事業は有料化を基本とし、責任を持って観光ガイドに務め、喜んでいただけるサービスを提供したいと考えています。また、それに付帯する食事や地域の特産品の販売等々、地域の経済効果を目指しています。

なお、この活動と一緒に参加していただける方を募りたいと思えますので、参加希望の方は代表者までご連絡ください。

(代表 亀尾 寛一)



打ち合わせの様子

ふるさと交流センター
利用団体の紹介
ブルーインズ
B.B.S. BASKETBALL SCHOOL



ブルーインズ・バスケットボールスクールの、生田浩一さんが学生時代から打ち込んできたバスケットボールをより広く深く浸透させたいと思い、開講されました。スポ少や部活でより活躍したい、もっと上手になりたい、もっとバスケットがしたい、といった小中学生がそれぞれの思いを持って集まっています。中にはブルーインズB.B.S.だけの子も。「うちは、クラブ登録をしませんので、それぞれのスキルアップを最終的に発揮するのは、自分のチームなんです。チームのため、自分のために上達したい子が集まって、がんばっているんですよ。ものすごい情熱ですよね」と生田さん。定期的に大阪や東京での講習を受講、スクールメイトへ最新の指導と情報を提供できるように常に努力は怠らないそう。バスケットに熱中できる環境を整えることによって『文武両道』も実行できているとのこと。レギュラーに入りたい、チームを勝利に導きたい、もっとバスケットを学びたい、そんなスクール生を随時募集しています。

活動時間

南部校

毎週火曜日 十七時～二十時

☆新規スクール生募集中

一度体験にお越し下さい！

☆米子校もあります。

問 0859-21-7771



現在、四季の子ども会は九世帯九人で活動しています。今年度は、新たに一年生の男の子二人が入学し、男の子七人、女の子二人の元気いっぱいの子ども会になりました。



九月に行われた福田神社例大祭では、子ども神輿をしました。朝から、皆で協力してお神輿作りや飾り付けをしました。お神輿を担いでの練り歩きでは、「わっしょい。わっしょい」と大きな声で地域内を歩き、子どもも大人も一緒に楽しむことができ、心に残る思い出になったと思います。

十月の天津地区の運動会では、みんなで踊って応援合戦に参加しました。

十二月には、クリスマス会を予定しています。楽しい会になるよう皆で協力したいと思っています。地域の皆様にはいつも協力していただき感謝しています。これからも子どもたちが笑顔でいられるよう、温かく見守っていただきたいと思いますのでよろしくお願いたします。

(四季子ども会 清水寛子)



編集後記

近年の気候の変調には、おうじょうしますね。

三十五度を超える暑い日が、当たり前のように続く夏が終わったと思えば、短い秋。特に今年は、十月の上旬まで三十度を超える日がありました。お蔭で九月に収穫したコメは二等米。台風は次々と襲来して、トタンの屋根の一部が飛ばされるやらで、余計な仕事を増やしてくれました。冬は長く、寒いと予想されており、十一月二十八日には初雪で例年よりかなり早い感じがします。雪もほどほどで願うばかりです。

(畠 稔明)

平成25年度
12月号
担当部員

明夫 寛宏 圭
稔 将昭
村田 口湊
畠吉 隅野小